

このマークは
なんてしょう?
※答えはページの下に



全曹青ボランティアが 変わります

全曹青は全体で一丸となってボランティアを考え、災害時の体制を平時から考えます。



これまでの反省点

平時= 2年1期毎にボランティア活動を検討

ボランティアの方向性を明確にするのが困難だった
災害時への全曹青の組織的対応や連携が不十分

災害発生

現地へボランティア委員が入って活動

ボランティア委員への負担(全国からの出向者・檀務・環境など)
災害時にはボランティア委員が活動、という意識の定着
(全曹青内でボランティアへの参加意識の向上につながらない面があった)

各曹青会や宗門行政機関との見解や意見の相違もあった

「災害対策に関する特別委員会」 を設置。災害対策の素案の検討へ

- 平時1 「素案」を基に、災害時の体制整備を検討してまいります。
- 平時2 災害復興支援部の制度点検見直し。
- 平時3 研修会などの開催。
- 平時4 各地の研修会などの情報をHP「般若」で提供。

災害時

今後、災害対策について検討中に災害が発生した時は「素案」にて対応。

- 1 災害復興支援部の体制へ。
- 2 情報収集に努めます。
- 3 情報の広報に努めます。
- 4 災害復興支援の活動をしようとする各曹青会などの支援をします。
- 5 全曹青全体で、活用できる“資源”を模索します。

柔軟な組織 そして 地域の為に地域主体

Q スーパーバイザーや
パートナーの人選は?

A 災害対策に関する特別委員会で素案を含めて検討審議してまいります。

Q 全曹青の出向者の
被災地活動はできるの?

A 各曹青会の一員として、または個人として活動できます。

Q この災害復興支援体制は
これで決定なの?

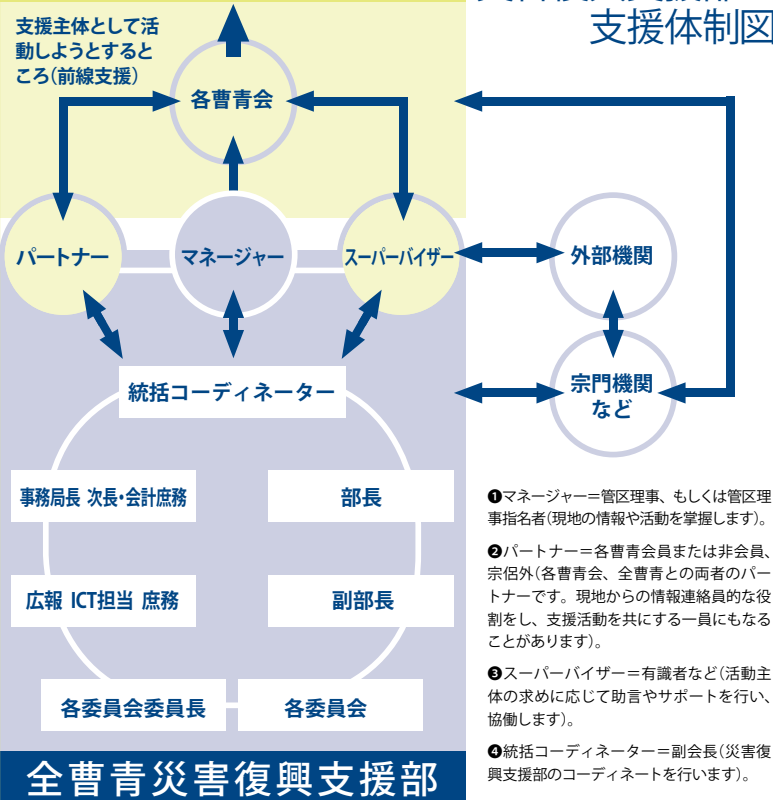
A 特別委員会で検討を重ねます。時や状況に応じて協議し改編する柔軟性を含んでおります。

各曹青会やパートナーの 活動を支援します。

各曹青会におかれましては、ボランティアや災害対策に独自に取り組まれているところもあろうかと思えます。全曹青は災害復興支援について各曹青会の活動を中継・後方支援をさせていただきます。原則として直接の現地活動をしません、各曹青会や現地活動されるところの要望に応じて、スーパーバイザーを活動の助言やサポートに派遣することができます。尚、17期ボランティア委員会が、各曹青会などの災害復興支援ボランティアのための活動参考資料として、ガイドラインを作成しHP般若に掲載されており、必要に応じてご活用が可能です。

被災地 被災者

災害復興支援部の 支援体制図



- ①マネージャー=管区理事、もしくは管区理事指名者(現地の情報や活動を掌握します)。
- ②パートナー=各曹青会員または非会員、宗侶外(各曹青会、全曹青との両者のパートナーです。現地からの情報連絡員的な役割をし、支援活動を共にする一員にもなることがあります)。
- ③スーパーバイザー=有識者など(活動主体の求めに応じて助言やサポートを行い、協働します)。
- ④統括コーディネーター=副会長(災害復興支援部のコーディネートを行います)。

※このマークは「般若」ウェブサイトにて!!